

七夕でSDGs ~星空編~

七夕当日の関心事といえば、「今晚は晴れる?」。毎年梅雨のさなかに訪れる七夕の夜、天の川が見られるのか?・・・ところが、せっかく晴れても天の川が見られないことも。「星空」を切り口に社会の課題やその解決にチャレンジしているトピックスを紹介します。

SDGs通信『光ヶ丘×SDGs』2020-号外⑤
2020年7月7日発行

星空×SDGs② 宇宙から地球をみつめる

最新の研究では、138億年の歴史をもつ宇宙。その広大な空間に無数の星たち・・・そしてその周りを回る惑星、衛星・・・宇宙空間を漂う星雲・・・星空を見上げると、宇宙のロマンへと誘われます。地球も、そんな宇宙に浮かぶ天体のひとつです。さまざまな偶然と奇跡が重なり約46億年前に誕生したとされます。その中でわれわれ人類は約500万年前に誕生し、5500年ほど前から「文明の歴史」を刻んできました。そして21世紀の今日、地球の「持続可能性」に向き合っています。そこで、「宇宙×SDGs」の視点で「地球」について考えてみましょう。



月や火星へ移住!? —「何もない」からこそ気づく、地球の恵み

現在、JAXA（宇宙航空研究開発機構）やNASA（アメリカ航空宇宙局）が月や火星の探索と将来の移住の可能性を探る計画を立てているとされます。かつてマンガやSF映画で描かれたシーンが実際に繰り広げられる日もやがてやってくる・・・ワクワクするような気持ちになりますが、冷静に考えてみると、水や食料はどうするの? エネルギーはどうする? ゴミが出たら? 排泄物は?? そもそも空気は???・・・実現可能性を考えれば考えるほど、現実と向き合うことになります。地球と比べればほとんど何もない世界に住もうとするわけですから、「あたりまえ」の日常がそこにはありません。

私たちがいかにこの地球の恵みを受けて「あたりまえ」の生活を送れているのか・・・、いや、そもそも私たちにとっての「あたりまえ」が享受できない地域がこの地球上にある・・・、宇宙への移住を考えるほど、地球の恵みとその大切さ、そして課題に気づかされるのです。

「かけがえのない地球」—この意味を、いま一度かみしめてみましょう。

「グローバル・プラネタリアン・シチズンシップ」へ

グローバル化のすすむ今日、地球規模で考え自ら発信できる市民的資質「グローバル・シチズンシップ」が提唱されることが多くなってきました。そこには、「教養」や「批判的思考力」、「コミュニケーション力」「対話力」「発信力」「探究」などのキーワードが付随してきて、これと関連づけた教育もさかんに行われるようになってきました。

最近では、この「グローバル・シチズンシップ」に惑星をさす「プラネット」の概念も包摂した「グローバル・プラネタリアン・シチズンシップ」を提唱する研究者も出てきました。

SDGsには「5つのP」の側面があると国連はいいます。すなわち、人間(People)、地球(Planet)、豊かさ(Prosperity)、平和(Peace)、パートナーシップ(Partnership)です。そのうち、地球は「大地」としての「Earth」ではなく「惑星」としての「Planet」をつかっています。



宇宙空間へと進出しようとする地球の人類ですが、逆に宇宙規模でこの地球をみつめる、みつめ直す視点も大切にしたいものです。「グローバル・シチズンシップ」から「グローバル・プラネタリアン・シチズンシップ」が求められる、そんな局面に私たちは立っているのかもしれない。

「瑠璃色の地球」を、未来の世代にも

「朝陽が水平線から 光の矢を放ち 二人を包んでゆくの 瑠璃色の地球」
作詞家の松本隆さんが作った歌詞を歌手の松田聖子さんが歌った名曲「瑠璃色の地球」の一節です。



長い長い宇宙の歴史のなかに、わたしたちの今があります。その恩恵は私たちの世代だけのものではなく、世界共通の、世代共通の、そして共有の財産です。

あらためて「七夕」を機に、私たちの生活をみつめ直し、国境を越え、世代を超え、時間軸さえもこえた視座から「持続可能性」の意味を考えてみましょう。

「ひとつしかない 私たちの星を守りたい」



(掲示した用紙はFSC®認証紙を使用しています)